

## コラム「論点提起」：「個」の自覚・自律や如何

最近、主催しているとあるフォーラムの参加申込状況（ネットによる事前登録）をみていて、家族で参加申込する場合に、一人ひとりの氏名、e-mail アドレスではなく、代表者一人の氏名で家族分（複数）を申し込んでいる事例に遭遇した。念のために、ダブリ登録ではないかと確認すると、「家族分」と云う。「個」がベースのネット社会においても、「個」としてよりも、「家族」という単位にとらわれている事実にはショックを受けた。そこには、「個」がみられない。

そういえば、「こども庁」も、発足間際になって、急遽、「こども家庭庁」に名称変更され、発足（令和 5 年 4 月 1 日）した。なぜ、「家庭」が加わったのか。「子育て世帯」「子育てに対する家庭の役割」云々等云われているが、こどもと親・家庭のあり方に多様性を認めているのか、本当に「こども」という「個」の尊厳、自律につながるのか、気になるところである。

参考：「子ども家庭庁」は最悪なネーミング…親の無理心中に巻き込まれる子どもが減らないワケ 「親の所有物」のままでいいのか 窪田 順生 2022/01/06 PRESIDENT Online <https://tinyurl.com/2nognn3q>

マイナンバーも「個」（本人）ではない「家族」名義の口座が登録されているケースが 13 万件あったと報じられている。仕組み/システム上の問題とされているが、真の問題は「個」が銀行口座を持たず、「個」としての経済的自立・自律の環境にないことに起因しているのではなかろうか。

参考：マイナンバー 家族の口座なぜ登録可能？ 照合できない仕組みとは 2023 年 6 月 7 日 NHK <https://www.nhk.or.jp/shutoken/newsup/20230607a.html>

さらには、「企業等」が従業員の社会保険や所得税等の処理を行う「源泉徴収制度」（戦時下の 1940 年の税制改正で導入）や「年末調整」により、従業員＝生活者「個」は社会保険や公租公課に疎くなっている。その結果、生活者「個」よりも企業等「組織」ベースの仕組みづくりが優先され、「個」としての自覚・自律が置き去りにされやすい社会状況を招来している。

参考：「昭和 15 年の税制改正では、滞納の未然防止や納税の簡易化、納税者の捕捉などのために一部の所得税には源泉徴収制度が導入されるなど納税方法の抜本的見直しも行われました。」 源泉徴収制度の導入-昭和時代- 国税庁 <https://tinyurl.com/2nwc4t8u>

野口悠紀雄著「戦後日本経済史」、新潮選書、2008 年 1 月 <https://www.shinchosha.co.jp/book/603596/>

一方で、コロナ禍後に、山陰へのツアーに参加した際、総勢 46 名（移動で利用するバスが満席）中、16 名（男性 5 名、女性 11 人：全体に占める比率 35%）が一人旅の方であった。そして、その多くは高齢者であった。高齢になっても、一人で参加して、参加者同士で仲良くなり、旅を楽しんでいる「景色」に、超高齢・長寿社会の多様な「個」の自律の一端をみた思いがした。

補：厚生労働省の「簡易生命表（令和 3 年）」 <https://tinyurl.com/2pnt32f9> によると、2021 年の日本人の平均寿命は男性が 81.47 歳、女性が 87.57 歳で、その差は 6.1 歳となっている。

総人口減少社会においては、多様性を認め、「個」を尊重してこそ持続可能な社会となる。「家族」、「組織」のくびきから解放され、個々人が「個」としての自律をめざす仕組みづくりが必要な時代となっているが、果たして、社会としてそうした道筋づくりに動き出せるや如何。